

<参考資料> 前田旺志郎さん 追加インタビュー

Q. 幼い頃きかんしゃトーマスを見たことがありましたか？

A. 僕は全然覚えていなかったんですけど、「トーマスがめっちゃくちゃ好きな子どもだった」という風に母親から聞いて、「そうやったんだ！」と驚きました。

Q. トーマスが今回2Dアニメにリニューアルします。これにちなんで、前田旺志郎さん自身が最近リニューアルしたことを教えてください。

A. 喫茶店に最近行くようになりました。元々コーヒーは好きだったんですけど、台本を覚えるとか、大学の作業とかをするという時に、家でも全然できるんですけど、喫茶店に行ってやる自分っていうのがなんかちょっとかっこいいなというか、ちょっと大人だなぁという風に最近思ってた（笑）最近よく喫茶店に行ってそういう作業をやるようになりました。メニューを見ずに「アイスコーヒーひとつ」と言ってみたり（笑）。自分の中のかっこいいっぽいと思うことをやったりしますね（笑）

Q. 現在大学に在学中だと思いますが、“大人”になるにつれて感じる、大変なことや悩みはありますか？

A. 多分これから先もこのお仕事が続けていくと思うんですけど、この仕事とかお芝居とかが、もし好きじゃなくなったらどうしようと思うことがあります。今はすごく楽しくお仕事させていただいているので、今の悩みではないんですけど、これが“仕事だからやる”、みたいなものになってしまうときがきたら、という先への不安はすごくあります。結構今まで、自分が好きだったものとか自分が楽しいと思えていたものが、大学生くらいになってから徐々に“楽しくないわけじゃないんだけど・・・”みたいな感情が湧くことがあって。

例えば、（元々）虫がめっちゃ好きだったんですけど、気がつけば虫に触れなくなっていた時に、すごい些細なことかもしれないんですけど、僕はすごく怖くて。「大人になるって虫触れなくなることなんだ！」とその時に思ってた。あんなに好きだった、毎日虫取りに行っていた少年・前田旺志郎が虫が横を飛んだだけで「はっ！」っとなって、その瞬間にすごい鳥肌が立って。「うわ、大人になるって怖いな」って思いました（笑）

（具体的なエピソードについては）僕セミめっちゃ好きで。本当、（小学生のころは）夏休み毎日虫籠と虫網を持って兄と近所の公園とかに行き、ずっとセミ捕っていたんですけど、（数年前のある日）蝉がいて、「あっ捕まえよう」と思ったんですけど、

（蝉が）「ヴィー」って飛んだんです、自分の横を。その時に「（避ける仕草をしながら）うわっ」となって。「あ、怖いんだ、蝉が」と。その時に思いました、大人になったなって（笑）

（悩みについては）僕悩まないんですよ。なくはないんですけど、何か起こっても、結構自分の中の魔法の言葉で「まあいっか」とか「どうせ死ぬわけじゃない」と思ってしまう性格で。なので何か悩んだことがあっても1日経ったら大体「まあいっか」みたいな、「どうせ死なないから大丈夫」と思っちゃうので、悩まないんですよ。すごいポジティブなのかなとは思ってますけど。

Q. もし子どもの頃の自分に“大人の前田さん”がアドバイスを送るならどんな言葉ですか？

A. 小さい時からこういうお仕事をさせてもらっていて、色んなたくさんの人とご一緒させてもらったんですけど、とにかくちょっと迷惑をかけすぎたなっていうのはありまして。

当時仕事をしているっていう感覚すらもなかったくらい幼かったので、楽しかったし、みんな優しくかったし、面白かったし、なんかすごいっぱい遊んでくれる大人たちがたくさんいるって思ってたんです。だけど、今考えるとあまりにも悪ガキすぎて、本当にうるさかったでしょうし、本当に迷惑かけていたんだろうなと。もうちょっと静かにしたらって言ってあげたいですね(笑) 当時はそこまで思ってなかったんですけど、最近小学校 1~2 年生の子役の方たちとドラマ・映画とかで共演するときが時々あって、めちゃくちゃみんなちゃんとしてるんですよね。もちろん、わーってふざける瞬間もあるんですけど、そういうのを見た時に、(当時の自分は) 比じゃないなって。僕が小学生だった頃ってこんなもんじゃなかったなって思った時に、めちゃくちゃうるさかったんだろうなって思いました。

(今は) 大人になったかなと思います。ちょっとは落ち着いたかなと思います(笑)